

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.28, 2004.2 : 3-10
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4141
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

大木 英夫 おおき・ひでお

1928年生まれ。1956年東京神学大学大学院卒。1960年ユニオン神学大学(ニューヨーク)ドクターコース卒。神学博士。組織神学・社会倫理学専攻。元東京神学大学学長。東京神学大学名誉教授。現在、聖学院大学大学院教授。学校法人聖学院院長・理事長。聖学院大学総合研究所長。

〔著書〕『ブルンナー 人と思想』(日本基督教団出版部, 1962年), 『ピューリタニズムの倫理思想』(新教出版社, 1966年), 『ピューリタン——近代化の精神構造』(中央公論社, 1968年), 『終末論的考察』(中央公論社, 1970年), 『終末論』(紀伊國屋書店, 1972年), 『現代人のユダヤ人化——現代文明論集』(白水社, 1976年), 『キリスト入門』(ヨルダン社, 1976年), 『歴史神学と社会倫理』(ヨルダン社, 1979年), 『偶然性と宗教』(ヨルダン社, 1981年), 『バルト』(講談社, 1984年), 『日本の神学』(共著, ヨルダン社, 1989年), 『主の祈り』(聖学院大学出版会, 1990年), 『新しい共同体の倫理学 基礎編』(上・下, 教文館, 1994年), 『日本は変わるか——戦後日本の終末論的考察』(共著, 教文館, 1996年), 『ローマ人への手紙——現代へのメッセージ』(教文館, 1998年), 『字魂和才の説——21世紀の教育理念』(聖学院大学出版会, 1999年), 『時の徴——第三ミレニアムとグローバリゼーション』(教文館, 2000年), 『組織神学序説——プロレゴメナとしての聖書論』(教文館, 2003年), その他。

鈴木 輝二 すずき・てるじ

1934年東京生まれ。早稲田大学法学部卒。ワルシャワ大学法学部博士課程修了。インディアナ大学ロシア東欧研究所フェロー, 香川大学法学部教授等を経て, 現在, 東海大学法学部教授。

〔著書〕『ユダヤ・エリート——アメリカへと渡った東方ユダヤ人』(中央公論新社), 『EUへの道——中東欧における近代法の形成』(尚学社, 2004年予定)ほか。

〔論文〕EU関係のみ。「欧州概念の東方への拡大と比較法の課題」, 『東海法学』, 東海大学, 第16号, 1996年, pp.117-202。「欧州連合(EU)拡大と中東欧」, 『国際金融』, 外国為替貿易研究会, ①-1008号(1998年7月1日号) pp.30-40/②-1009号(1998年7月15日号) pp.50-54。「欧州連合(EU)の拡大と中東欧の1990年体制」, 『東海法学』, 東海大学, 第21号, 1999年, pp.23-71。「欧州周辺部における西欧法文化の展開(一)」, 『東海法学』, 第26号, 2001年, pp.69-113。「中東欧における土地再私有化と私的所有権体制」, 『東海法学』, 第27号, 2002年, pp.1-59。「欧州周辺部における西欧法文化の展開(二)」, 『東海法学』, 第29号, 2003年, pp.7-63。「欧州周辺部における西欧法文化の展開(三, 完)」, 『東海法学』, 第31号, 2004年。ほか多数。

大藤 紀子 おおふじ・のりこ

1986年、一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。1991年、パリ第二大学大学院法学部博士課程にてD. E. A. 取得。1993年、一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得。法学修士。1997年より聖学院大学講師。2001年より聖学院大学助教授。2003年よりパリ第二大学客員研究員。〔著書〕「現代立憲主義の下における人権条約の地位について——フランスの場合——」（共著、『主権と自由の現代的課題』勁草書房、1994年）、「EUの超国家的性質とフランスにおける欧州市民権の位置づけについて」（共著、『人権理論の新展開』敬文堂、1994年）、「1953、54、55年の年表及び解説」（共著、『日本国憲法史年表』勁草書房、1998年）、「ヨーロッパにおける「民主的社會」の要請」（共著、『憲法の歴史と比較』日本評論社、1998年）、「ヨーロッパにおける「地域」の位置づけについて」（共著、『二一世紀の立憲主義——現代憲法の歴史と課題——』勁草書房、2000年）、『憲法四重奏』（共著、有信堂高文社、2002年）、「欧州人権条約——死刑廃止——1985年5月22日憲法院判決」、「国土整備振興判決——地域による差異・積極的差別是正措置——1995年1月26日憲法院判決」（共著、『フランスの憲法判例』信山社、2002年）、「変容する『法の支配』——フランスを例に——」（共著、『法の支配の現代的課題』敬文堂、2002年）、「フランス法秩序と条約——欧州の法と国内法の『調整』をめぐって——」（共著、『欧州連合とフランス憲法の変容』有斐閣、2003年）、*Constitution, Loi et Traités internationaux, — Leurs statuts dans les systèmes juridiques français et japonais —*（共著、*La constitution et le temps, L'Hermès*, 2003年）ほか。

森田 朗 もりた・あきら

1951年神戸市生まれ。1976年東京大学法学部卒。同年同大学同学部助手、1981年千葉大学法経学部助教授、1993年同教授を経て、1994年より東京大学大学院法学政治学研究所・法学部教授。専攻は行政学。日本の行政システムおよび官僚制を研究。地方分権を中心に日本における行政改革の研究を行っている。財政審議会専門委員、地方分権改革推進会議委員。これまでに地方分権推進委員会参与、中央省庁再編等基本法案（仮称）準備委員会参与、自治省市町村合併研究会座長等を歴任。

〔著書〕『許認可行政と官僚制』（岩波書店、1988年）、『アジアの地方制度』（編著、東京大学出版会、1998年）、「必置規制の見直しと地方公共団体の組織」『新・地方自治法講座12巻・地方分権と地方自治』（ぎょうせい、1998年）、「改訂版・現代の行政」（放送大学教育振興会、2000年）、『1 分権改革と自治体』（東京法令出版〔森田朗編集代表〕『地方分権と自治体改革』全7巻）、2000年）、「分権化と国際化『自治体の構想1——課題』（岩波書店、2002年）、「『自治体』のイメージとその変化」『分権と自治のデザイン』（有斐閣、2003年）、その他。

佐々木 信夫 ささき・のぶお

1948年生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修了。法学博士（慶應大学）。東京都庁総務局、企画審議室、都市計画局などをへて、1989年聖学院大学教授。1994年より中央大学経済学部教授、聖学院大学総合研究所・同大学院客員教授。2001年より中央大学大学院経済学研究科教授。カリフォルニア大学（UCLA）客員研究員、各種審議委員などを歴任。1987年日本都市学会賞、1999年NHK地域放送文化賞受賞。専攻は行政学、地方自治論。

〔著書〕『東京都政』、『都庁』（岩波新書）、『市町村合併』（ちくま新書）、『現代行政学』（学陽書房）、『自治体の公共政策入門』（ぎょうせい）など。

青木 信之 あおき・のぶゆき

1982年東京大学法学部卒。長崎県総務部財政課、外務省経済協力局国際機構課、自治省大臣官房企画室企画第一係長、大分県環境保健部公害規制課課長、同県総務部財政課課長、自治省財政局準公営企業室課長補佐、同省大臣官房企画室課長補佐、同省行政局行政課課長補佐、同省行政局公務員部給与課課長補佐、同省財政局財政課課長補佐、埼玉県県民部次長、総合政策部次長、総合政策部部长、埼玉県副知事、現在、総務省自治財政局地域企業経営企画室長。

市川 宏雄 いちかわ・ひろお

1947年東京都生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒。同大学大学院修士・博士課程（都市計画）修了。カナダ政府留学生としてウォータールー大学大学院博士課程（都市地域計画）修了（Ph.D.）。（財）国際開発センター、富士総合研究所を経て、現在、明治大学政治経済学部教授（都市政策）。先進国における大都市問題や途上国での大規模な地域開発に携わり、大都市の将来ビジョンや都市と地方の課題解決に取り組む。国連・東京都・都市経営世界会議専門委員、東京都都市計画審議会専門委員、港区基本構想審議会会長等を歴任。

〔著書〕『しなやかな都市東京』、『「NO」首都移転』、『首都圏自治体の攻防』（編著）、『成熟都市東京のゆくえ』（編著）、『東京都を読む事典』（編著）等多数。

永井 多恵子 ながい・たえこ

世田谷文化生活情報センター（劇場＋生活工房）館長。元NHK解説委員。文教ジャーナリスト。1980年からNHKで文化・教育・女性問題を主題に解説委員として活躍。NHK浦和放送局長時代にはスタジオを地域文化活動に開放、イッセイ・尾形を起用して都市近郊問題をドキュメンタリー・ドラマに仕立てるなどパイオニアとして知られる。1997年より世田谷文化生活情報セ

ンター館長，中央教育審議会，雇用審議会等歴任。2002年，メディアと文化交流に対し仏文化芸術勲章受章。

金井 利之 かない・としゆき

1967年群馬県桐生市生まれ。東京大学法学部第3類卒。同大学同学部助手（行政学），東京都立大学法学部助教授（都市行政論・行政学），オランダ国立ライデン大学社会科学部客員研究員を経て，現在，東京大学大学院法学政治学研究科助教授（都市行政学・行政学）。

安酸 敏眞 やすかた・としまさ

1952年鳥取県生まれ。1980年京都大学大学院文学研究科博士後期課程（キリスト教学）学修退学。1985年アメリカ合衆国ヴァンダービルト大学大学院博士課程（宗教学）修了。Ph.D. および京都大学博士（文学）。現在，聖学院大学人文学部欧米文化学科および大学院アメリカ・ヨーロッパ文化研究科教授。

〔著書〕 *Ernst Troeltsch: Systematic Theologian of Radical Historicality* (Atlanta: Scholars Press, 1986)。『レッシングとドイツ啓蒙』（創文社，1998年），『歴史と探求——レッシング・トレルチ・ニーバー——』（聖学院大学出版会，2001年）， *Lessing's Philosophy of Religion and the German Enlightenment* (New York: Oxford University Press, 2002)，『キリスト論論争史』（共著，日本キリスト教団出版局，2003年）。

〔訳書〕 エルンスト・トレルチ『信仰論』（教文館，1997年），F・W・グラーフ『トレルチとドイツ文化プロテスタンティズム』（共編訳，聖学院大学出版会，2001年）。

深井 智朗 ふかい・ともあき

1964年生まれ。アウクスブルク大学哲学・社会学部博士課程修了。哲学博士（アウクスブルク大学）。現在，聖学院大学総合研究所助教授。

〔著書〕 *Paradox und Prolepsis*, Marburg, 1996, 1999 (2.Aufl.)，『アポロゲティークと終末論』（北樹出版），『政治神学再考』（聖学院大学出版会），『文化は宗教を必要とするか』（教文館），『ハルナックとその時代』（キリスト新聞社）など。

松谷 好明 まつたに・よしあき

1944年福島県生まれ。一橋大学社会学部卒。1970年神戸改革派神学校に学んだ後（3年中退），英国トリニティ・カレッジ・ブリストル神学校ならびにブリストル大学大学院（Dip.Th.）に学

ぶ。現在、聖学院大学総合研究所特任助教授（ピューリタニズム研究室長）。

〔著書〕『ウェストミンスター神学会議の成立』、『ウェストミンスター神学会議議事録抄』、『ウェストミンスター神学会議——その構造化』（いずれも、一麦出版社）。

〔訳書〕トマス・ブラウン『スコットランドにおける教会と国家』、『ウェストミンスター信仰告白と今日の教会』（いずれも、すぐ書房）、『ウェストミンスター信仰規準』（一麦出版社）、ポール・ヘルム『カルヴァンとカルヴァン主義者たち』（聖学院大学出版会）、ウィリアム・ステイル『牧師の仕事』（いのちのことば社）、トム・ウィルキンソン『ウェストミンスター信仰告白註解』（一麦出版社）。

土方 透 ひじかた・とおる

1956年生まれ。社会学博士。ハノーファー哲学研究所客員教授（1993～95年）、ヴェルツブルク大学哲学部客員教授（2000～01年）。現在、聖学院大学教授。カッセル大学社会科学講座客員教授。Soziale Systeme: Zeitschrift für soziologische Theorie 学術顧問。専攻は理論社会学・法社会学・宗教社会学・社会システム理論。

〔著書〕『ルーマン／来るべき知』（編著、勁草書房）、『リスク——制御のパラドクス』（共編著、新泉社）、『宗教システム／政治システム——正統性のパラドクス』（編著、新泉社）、*Riskante Strategien: Beiträge zur Soziologie des Risikos*（共編著、Opladen, 1997）ほか。

アンドレアス・ゲーベル Andreas Göbel

1961年生まれ。現在、エッセン大学社会学部助手。Sociologia Internationalis. Internationale Zeitschrift für Soziologie, Kommunikations- und Kulturforschung 編集委員。

〔著書〕*Theoriegenese als Problemgenese: Eine problemgeschichtliche Rekonstruktion der soziologischen Systemtheorie Niklas Luhmanns* (Konstanz 2000), *Gesellschaft* (Bielefeld 2004), *Systemtheorie und Wissenssoziologie* (zusammen mit Markus Göbel) (Hg.) (Konstanz 2004), 「政治システムの自己記述」(土方透・編著『宗教システム／政治システム——正統性のパラドクス』新泉社, 2004年所収) ほか。

森川 剛光 もりかわ・たけみつ

1969年生まれ。慶應義塾大学経済学研究科博士課程単位取得退学。1997年よりドイツ学術交流会奨学生としてカッセル大学留学。社会学博士（カッセル大学）。カッセル大学非常勤講師（1998～2001年）、ハイデルベルク大学非常勤講師（2002～2003年）。現在、日本学術振興会特別研究員。専攻は社会学理論、宗教社会学・文化社会学、社会思想史。

〔著書〕*Handeln, Welt und Wissenschaft. Zur Logik, Erkenntniskritik und Wissenschaftstheorie für*

Kulturwissenschaften bei Friedrich Gottl und Max Weber, Wiesbaden 2001.

〔論文〕「理念型の再解釈」『三田学会雑誌』93巻1号（2000年4月）。

〔訳書〕「社会科学方法論にかける初期ゴットルとマックス・ヴェーバー」『三田学会雑誌』90巻4号（1998年1月）、A・ナセヒ「宗教と道徳」、R・シュティヒヴェー「政治と世界社会」（土方透・編著『宗教システム／政治システム——正統性のパラドクス』共訳、新泉社、2004年所収）ほか。

森田 美千代 もりた・みちよ

1946年生まれ。国際基督教大学大学院修士課程教育研究科修了（教育学修士）。ドルー大学神学部 Master of Theological Studies 修了（神学修士）。ドルー大学大学院博士課程アメリカの宗教と文化専攻修了（哲学博士）。現在、聖学院大学総合研究所助教授。

〔論文〕“Horace Bushnell on Women in Family, Church, and Nation in Nineteenth Century Christian America.” Ann Arbor: University Microfilms International, 1999. ほか。

高 萬松 こう・まんそん

1953年生まれ。慶北大学校卒。東京神学大学大学院神学研究科博士前期課程修了。現在、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程。

〔訳書〕フォーサイス『バルンキドワ クヨルメ』（大韓基督教出版社、ソウル、1999年）（*The Soul of Prayer*の韓国語翻訳）。

〔論文〕「P・T・フォーサイスにおけるインディペンデンシーの影響」（『聖学院大学総合研究所紀要』22号、2002年）、「P・T・フォーサイスにおける神義論」（『聖学院大学総合研究所紀要』25号、2003年）、「フォーサイスと第一次世界大戦」（『聖学院大学総合研究所紀要』26号、2003年）。

佐藤 貴史 さとう・たかし

1976年生まれ。聖学院大学大学院政治政策学研究科修士課程修了。現在、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程在籍。

〔論文〕「ハンナ・アーレントにおけるデモクラシーの可能性——ヨーロッパとアメリカの間で——」（『聖学院大学総合研究所紀要』24号、2003年）。

ディーン・W・サザデン Dean W. Sotherden

1960年生まれ。1982年オハイオ大学卒。テンブル大学にてM. Ed.取得。現在、聖学院大学総合研究所専任講師。SLI副所長。

〔論文〕 A Literature Review of Motivation and Second Language Acquisition, Unraveling the Mystery of Motivation in EFL Education, An Introduction to Some Important Writings Relevant to EFL and ESL Education, The Role Of Discourse Analysis In EFL Education, The Japanese Identity Crisis: Friend Or Foe Of English Language Teachers? (Bulletin of Seigakuin University General Research Institute, No.21, 2001), Is Learning English Truly Advantageous For the Japanese? (Bulletin of Seigakuin University General Research Institute, No.22, 2001), Cross-Cultural Education And Intercultural Communication (Bulletin of Seigakuin University General Research Institute, No.23, 2001), The Art Of Teaching English As A Foreign Language In Elementary School (Bulletin of Seigakuin University General Research Institute, No.24, 2002), Creating An Environment That Is Conducive To Learning (Bulletin of Seigakuin University General Research Institute, No.25, 2002), Demystifying Learning (Bulletin of Seigakuin University General Research Institute, No.26, 2002).

クリフォード・ギブソン Clifford Gibson

Born 1949. 1994 University of the State of New York Psychology/Sociology. 1998 University of Leicester Advanced Certificate in The Teaching of English to Speakers of Other Languages. 1999 University of Leicester M.A. Linguistics/TESOL.

〔論文〕 *Beginnings And No End*; poem. Collaboration Volume XIII: Number 2 (1987), *Pass the Mouse, Please*; article on using the computer in the classroom. MacTokyo Volume 2.05 (1989), *Flash Card Stack: Designing Your Own*; article on modifying software for studying kanji or other learning task. BMUG, The Newsletter Volume VII: Number 2 (1991), "The Happening," short story published in *East-West Encounters: An Anthology of Short Stories*. Ed. E.R. Snodgrass. Okemos: Japanophile Press (1991), *English Phrase Kit: Eikaiwa Chotoshita Iikatta Hyogen Jiten*; English phrase book. Tokyo, Tokyodo Publishers (Gibson, C., Provo, P., Sugawara, C, 2002).

ロベルト・ラビニ Roberto Rabbini

born 1970. 1992 University of Wales B.A. History (Honours). 1994 Trinity College London Certificate TESOL. 2002 University of Surrey M.A. Linguistics (TESOL).

〔論文〕 'A Discussion and Exemplification of the Hypothesis that "the teaching of literature in a foreign language must still be particularly dependent on approaches taken to teaching mother

tongue literature.”’ *Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies*. Vol 10, no.1, 87-100. Chiba: The Reitaku International Society of Economic Studies. (2002), ‘An Introduction to Syllabus Design and Evaluation with Specific Reference to Japan Based EFL Teachers.’ *ITESL Journal*. <http://iteslj.org/Articles/Rabbini-Syllabus.html> (2002), ‘Pedagogic Implications Arising from the Differences Between the Main Phonetic and Phonological Features of the Pronunciation of a Japanese Learner of English and the RP Variety: A Case Study of a Japanese high school student.’ *Gengo no Sekai*. Vol. 20, No.1/2 157-176. (2002), ‘The Genre Approach to Writing Assessed.’ *Academic Exchange Quarterly* Vol 7, No.1 126-131. (2003).